

LGBTの居住実態

不動産関連の比較査定

サイト「スマイスター」

を運営するシースタイル

(東京都中央区)は、

「LGBTカップル」の

現状を調べた。

LGBTとは、Lレ

ズビアン(女性同性愛

者)、G=ゲイ(男性同

性愛者)、B=バイセク

シャル(両性愛者)、T

トランスジェンダー(身

体的性別と性自認が一致

しない人)の各単語の頭

文字を取った表現。日本

では13人に1人いると言

われている。

LGBTに「現在の住

居形態」を聞いたところ、

「民間の賃貸住宅」が46

・3%と約半数を占め、

「実家」(30・1%)、

「公共の賃貸住宅」(12

・2%)、「持ち家(パー

賃貸住宅46%、入居断れるケースも

トナーの持ち家も含む)」

(6・5%)、「シェア

ハウス」(3・3%)、

「社宅や官舎」(1・6

%)だった。

最近話題になっている

性的少数者を受け入れる

不動産仲介会社が存在、

いわゆるLGBTフレンド

「将来の不安」(38・1

%)や、「近所や周囲ら

の差別や無理解」(29・

7%)に次いで大きい問

題となっている。

良い物件があってもL

GBTだと告げると入居

を断られるケースは少な

くないようで、実際に住

まいを借りる際には2人

入居可物件でひっそり同

棲していたり、その同棲

否を減らす方向で動く。

でも「入居を断られる

のではないか」や「同性

同士2人で入居するつも

りで事実を隠して契約

し、後日トラブルになっ

てしまつのでは」といっ

現在の住居形態 (N=123)

